

9月25日正午必着

明石春浦先生書

花に水を以て
春の香りを拂ひ去る

うすく春の香りを拂ひ去る

はるのかえるとこうをあとづけんとはっし
はるのとうもはるはるはかたらす
欲レ迹二春歸處一
問レ春春不レ語
流水興落花一 悠然背人去
（松本奎堂）

※令和六年七月号の明石春浦先生自由参考手本中央の「櫻」の字が「梅」になつ
ていることに気付かず掲載してしまいました。謹んでお詫び申し上げます。

明石幸子書

國上山
松風涼し 越え來れば
山時鳥 をちこちに鳴く（良寛）

くがみやま
國上山
松風涼し 越え來れば
やまはとときす
山時鳥 をちこちに鳴く（良寛）

9月25日正午必着

早蛩啼復歇 殘燈滅又明
隔窗知夜雨一芭蕉先有聲
送殷堯藩游山南 (姚合)
詩境西南遠 秋聲晝夜蛩
人家連水影一驛路在山峯一
溪靜雲生石 天晴雪覆松
我爲公府繫一不 得此相從一
早き瀬のこに曲りて 幅ひろき秋の川原に 子らあそぶ見ゆ (若山 牧水)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

秋風發初涼 (劉鑠)

秋風初涼を發す

秋風が吹きて初めて涼しく成つた。

早蛩啼復歇 殘燈滅又明
隔窗知夜雨一芭蕉先有聲
(白居易)

早蛩啼いて復たやむ 殘燈滅して又明らかなり
窓を隔てて夜雨を知る 芭蕉先ず聲有り

これはしとしとと降る秋雨であろう、その雨の芭蕉の葉を打つ音が聞える。



細谷春誠先生書

半紙部規定課題A

9月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書

草書

胸を傷めつつ詩を吟じ、ただひとり歩む。すべてに深い感懷をもよおす。
かの人が魚を釣ったところに久しく立ちつくすとき、ただ鳥の声がきこえてくるだけ。
山中の蔬菜は雨にうたれて枯れ尽き、水辺の樹木が籬の中にはいりこんでいる。
いまわれこの谷川のほとりにあって、君を懐しみ、悲しみ悼む気持をおし静めることができない。

行草書

隸書

明石春浦先生書

經周處士故居

方干

愁吟與獨行
何事不關情

久立釣魚處
惟聞啼鳥聲

海樹入籬生
吾在茲溪上
懷君恨不平

周處士故居
愁吟與獨行

方干

久しく釣魚の處に立ち
惟だ啼鳥の声を聞く

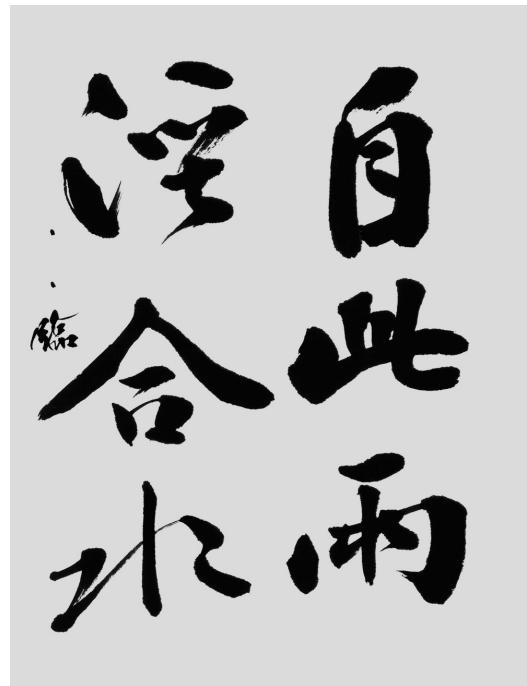
山蔬雨に和して歌き
籬に入りて生ず

海樹籬に在りて
吾れの溪上に在りて
君を懷うて恨み平らかならず

朝日新聞社刊
〔三体詩下刊より〕

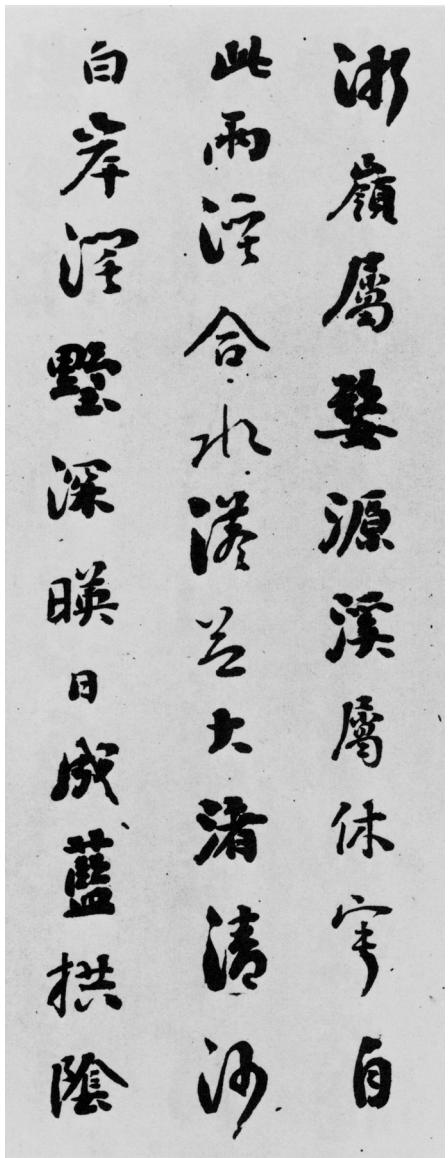
臨書課題・半紙部参考

9月25日正午必着



此自
り
両
溪
合
し、
水
い

三浦士岳先生臨書



浙嶺屬婺源溪屬休寧自此雨洪合水深潭茗日成藍拱陰

(今) 浙嶺は婺源に属し、溪は休寧に属す。此より両溪合し、水港益ます大なり。渚清く沙白く、岸濶く墅深し。日に暎じて藍と成り、陰を拱し(碧を聚め)

清劉墉・雜帖冊

劉墉(一七一九～一八〇四) 山東省諸城の人。字は崇如、はじめ木庵と号し、のちに石庵と改めた。ほかに青原、香巖、日觀峰道人などと号した。

代々貴族の家柄で、父の劉統勲は東閣大学士という官職になってしまった人で、劉墉はその長子として生まれた。父に劣らず徳望があり、累進して体仁閣大学士となり、のちに太子少保が加えられたといふ。

彼は経史百家に通じ、詩文にすぐれ、特に書をよくしたことでも名高い。はじめ董其昌、趙子昂を学び、壯年になり蘇東坡、黃谷山を学び、その後、魏晋の古法におよんで、彼の書は確立されていったと言われる。やや円味をおびながら、一字一字に工夫を凝らし、淡々としているよう、大小肥瘦や結体の変化に気を配っている。明代の連綿草のような派手さとは対照的に想いを内へ籠めた朴訥とした重厚さと深い情味を感じさせる。漆のごとき濃墨を用い、濃墨宰相と称された。

(春濤)

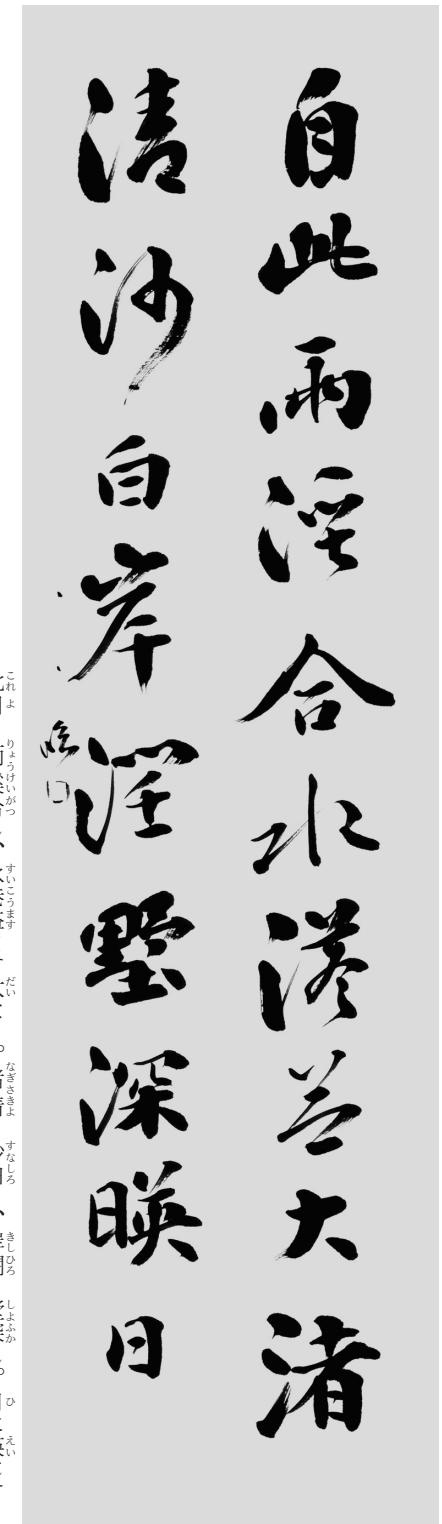


天遊

(莊子)

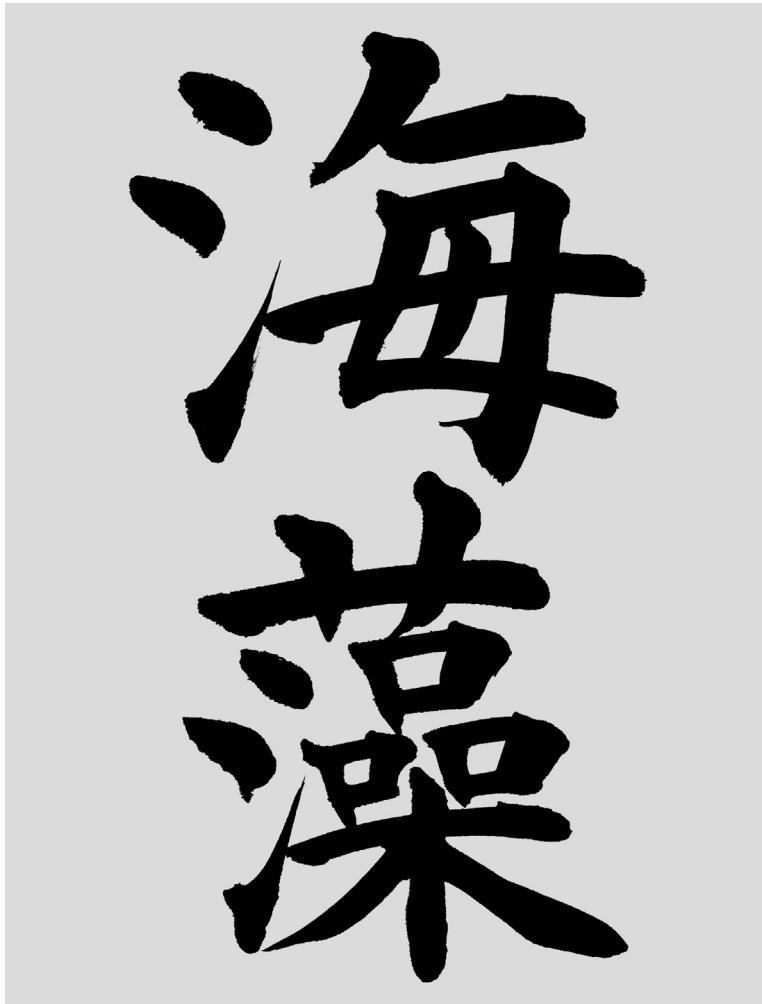
物にわざらわされず、心にわだかまりがなく自然のままに自由であること。

▲倣書参考▽ ※この頃文での臨書部門の出品は出来ません。



9月25日正午必着

教育部毛筆



かい
海

そう
藻

中学一年



とう
陶

き
器

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸 春龍先生書

要

點

小学五年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



横川 春川先生書

好

意

小学六年

9月25日正午必着



なん

ほく

小学三年

藤田幸春先生書



くだ

もの

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ふ

え

小学一年・幼年

明石幸子書



見

る

小学二年

森川春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着

教 育 部 硬 筆

ペ ン 字 部

墓まいりに行きます
おひがんには家族で

むかしから家に伝わ
る古い柱時計がある

部屋の中はよく整理
されとても清潔です

いつちの「さく」はひかけ
こだまの裏てへ待つは誰

きのゆよき、キずけれ異
入る山の山へ、山鹿子、山鹿子

世の中よ道こそなけれ思ひ入る山のおくにも鹿ぞ鳴くなる（皇太后宮大夫俊成）

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

いお
こま
のつり
ねの
い
ろた

幼年

小あ
さか
なぞ
こを
とと
りり

小学一年

草花
ん花
でを
かか
えご
つに
たこ

小学二年

が歌
ら山
を口
をさ
のほ
すさ
みる

小学三年

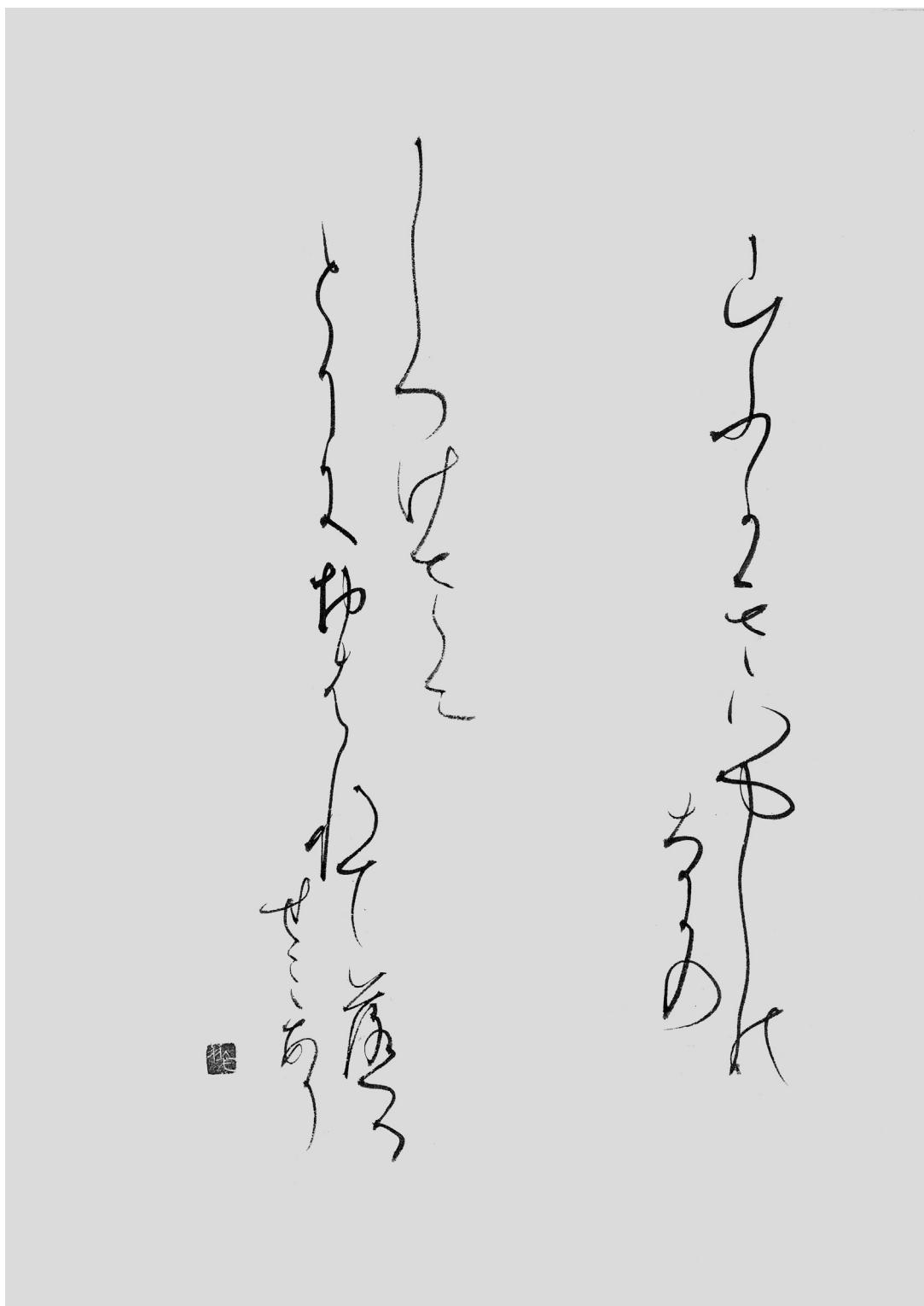
葉
が風
にゆれる
黄緑
の小さ
なふた

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

9月25日正午必着



松永翠舟先生書

山ふかき
可八也
能奈可
のなかの
しづけさに
二二
とりにおはれて
者者
落つるせみあり
三三
(斎藤茂吉)